

尾を終えた雄は、原則として越冬中に死に絶えるものと思われる。幼虫は、成中以上に強く、うまく適応できるものと思われ、死亡率も少いように思われた。

淡路島産の蝶類追加 (I)

堀 田 久

筆者は、淡路島産の蝶類について本誌№9に発表したのが、その後採集されていることが判明した種について報告しておきたい。なおこれで淡路島から記録された蝶類は、トラフシジミ(本誌№10)を加えて72種類を数えることになる。

1. コツバメ *Ahlbergia ferrea* Butler

山崎俊道氏が1965年と1966年の4月、津名郡五色町広石と下辨で本種をかなり採集し、多数の個体を目撃されている。

2. ヤクシマルシジミ *Celastrina puspa umenonis* Matsumura

1972年10月、三原郡南淡町灘で本種が1頭採集されている。(写真から♀と思われる)これは、愛媛大学農学部昆虫学研究室が国立公園協会から依頼されて、本四架橋ルートの島々の昆虫相の調査を実施したとき記録されたものである。(本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書、学術編昭和48年3月財団法人国立公園協会)なお、未筆ながら貴重な資料を御恵いただいた愛媛大学農学部の久松定成先生に厚くお礼申し上げます。

洲本市でミヤマクロハナカミキリを採集

1973年5月12日、洲本市安乎町で、ガマズミの花に来ていたミヤマクロハナカミキリ *Anoplodera excavata* Batesを3exx採集したが、1974年5月18日にも全く同じ場所で本種を8exx採集したので報告しておく。

(堀 田 久)